

山形大学教職員の ワークライフバランス

～「男女共同参画に係るアンケート」調査結果からみる
実態と意識～

山形大学男女共同参画推進室

サブ・コーディネーター 助教

坂無 淳 Jun SAKANASHI

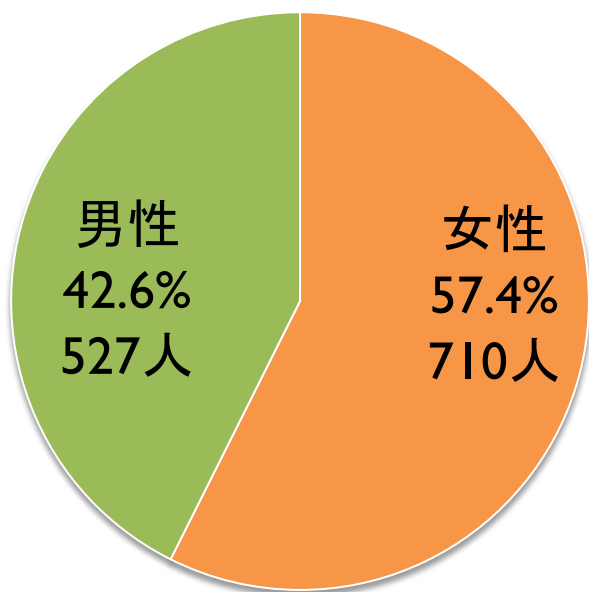
詳細版は手元の資料をご参照下さい。

1 アンケート調査の実施方法

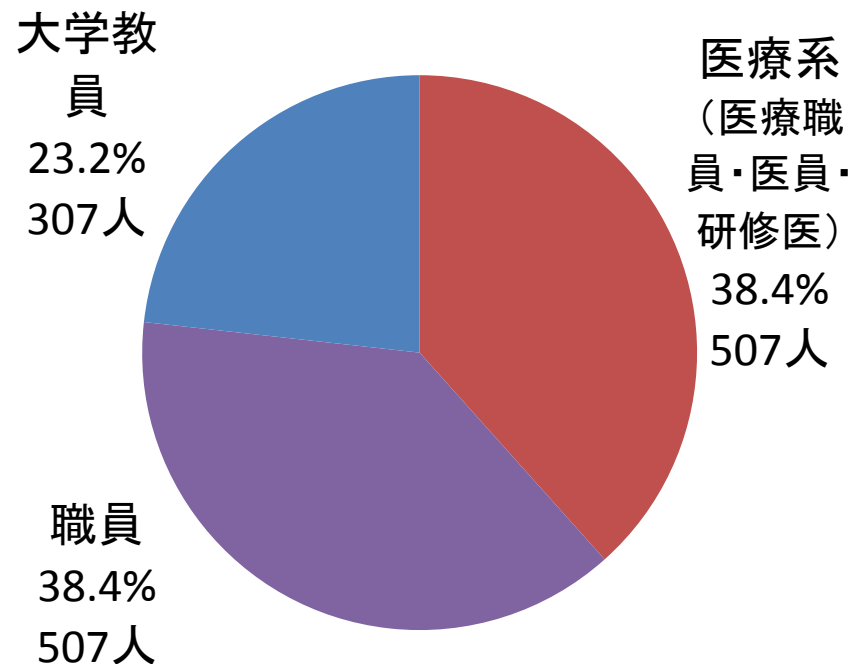
- **実施期間**: 2009年10月～11月
- **調査対象**: 山形大学の全ての「常勤教職員と定時・短時間勤務職員」（2009年10月13日現在2472人） 全数調査
- **調査表**: 全8ページ。昨年度の調査を元に男女共同参画推進委員会・男女共同参画推進室で検討
- **配布・回収方法**: 男女共同参画推進室→
部局ごとに調査票を配布・回収
- **回収率**: 53.8% (2471人に配布、1329部の有効回答)

2 回答者の基本属性 性別・職種

性別(全体) 無回答92人

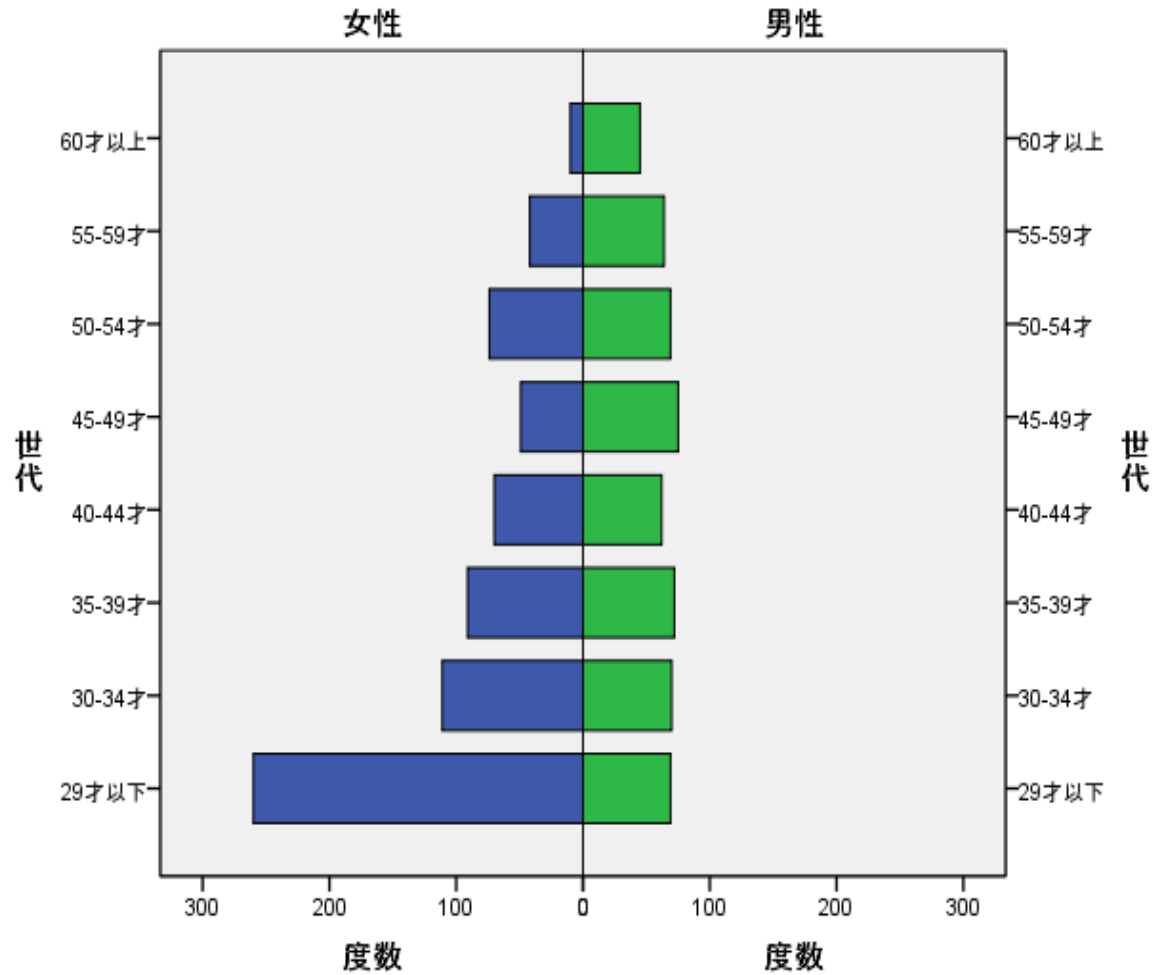


職種(3分類)



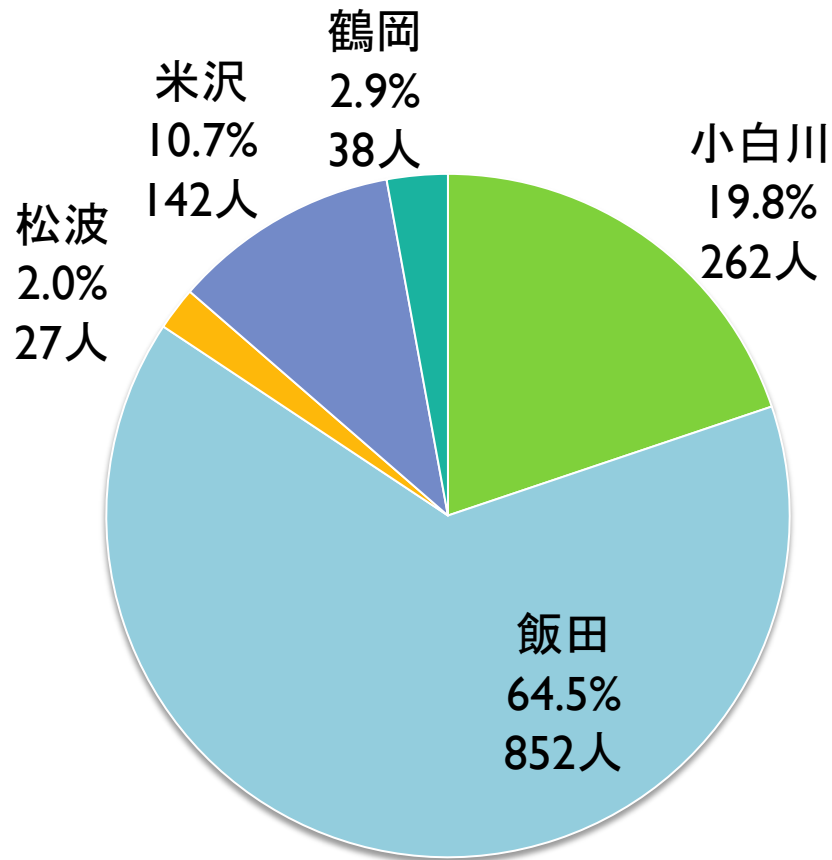
世代

性別



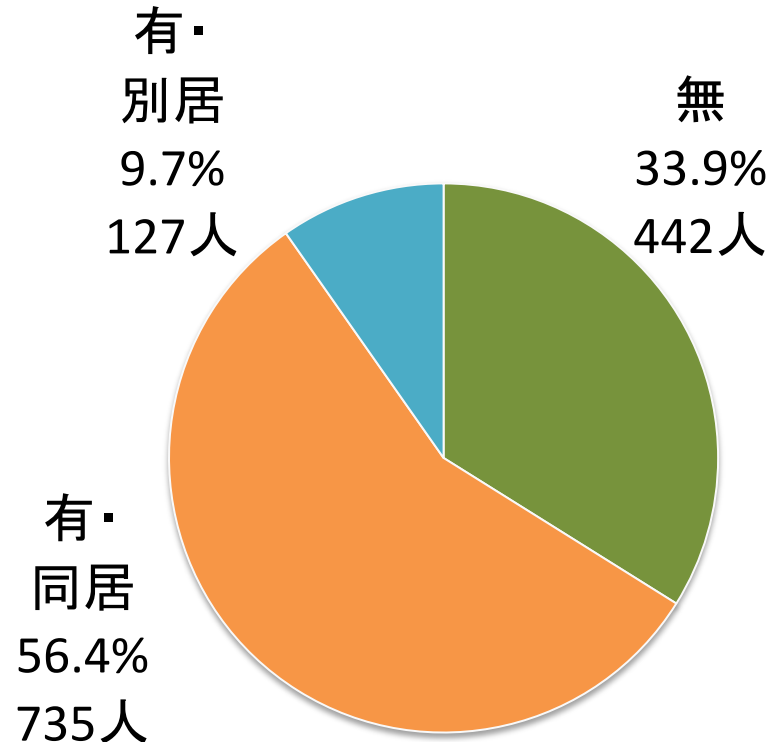
若い世代の女性が多い(医療系・職員)

所属キャンパス



3 ライフ(生活)について

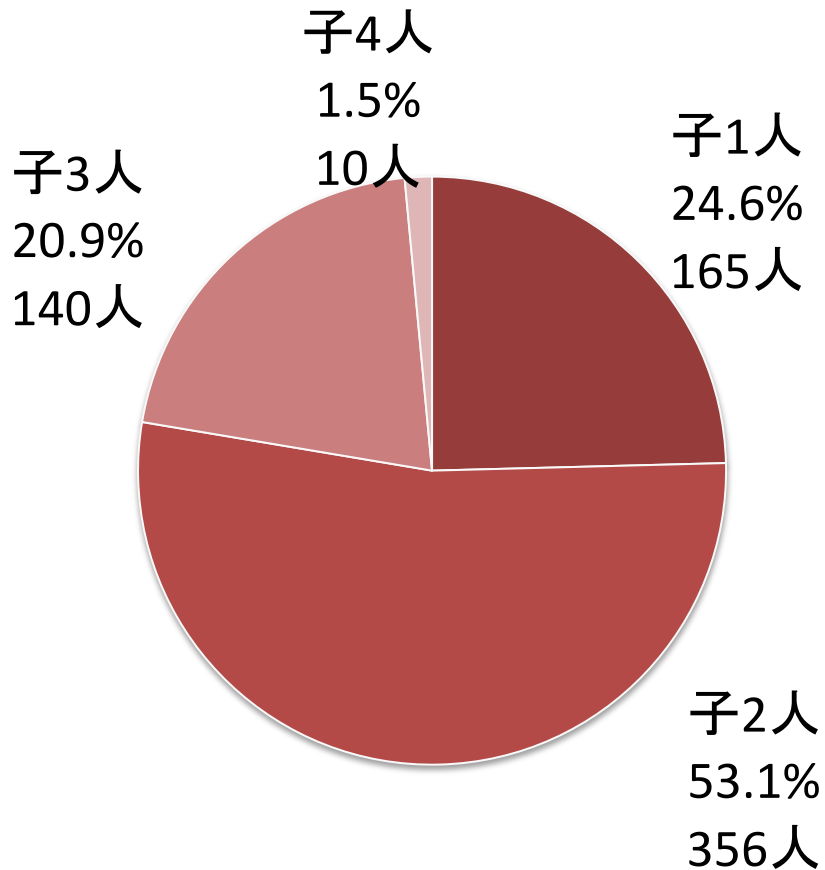
配偶者・パートナーの有無



- ・配偶者等有・同居が56.4%、有・別に暮らしている人が9.7%。
- ・大学教員女性では男性より独身・別居が多い(世代に関わらず)。
(手元資料参照)

子ども数

子どもの人数
子ども有りN=671人



平均子ども数 1.99人

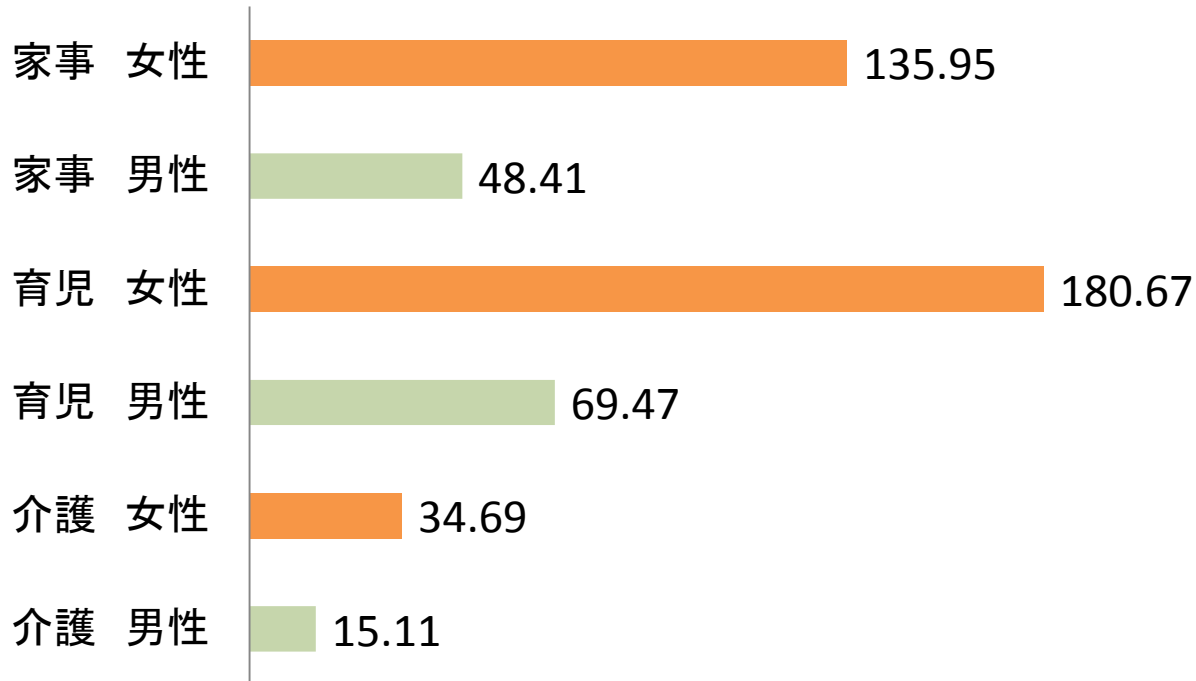
理想の子ども数 2.49人

アンケート回答者の子ども
だけでも、

全キャンパスで1341人、
小学生以下では540人。

家事・育児・介護時間 (育児・介護は該当者のみ)

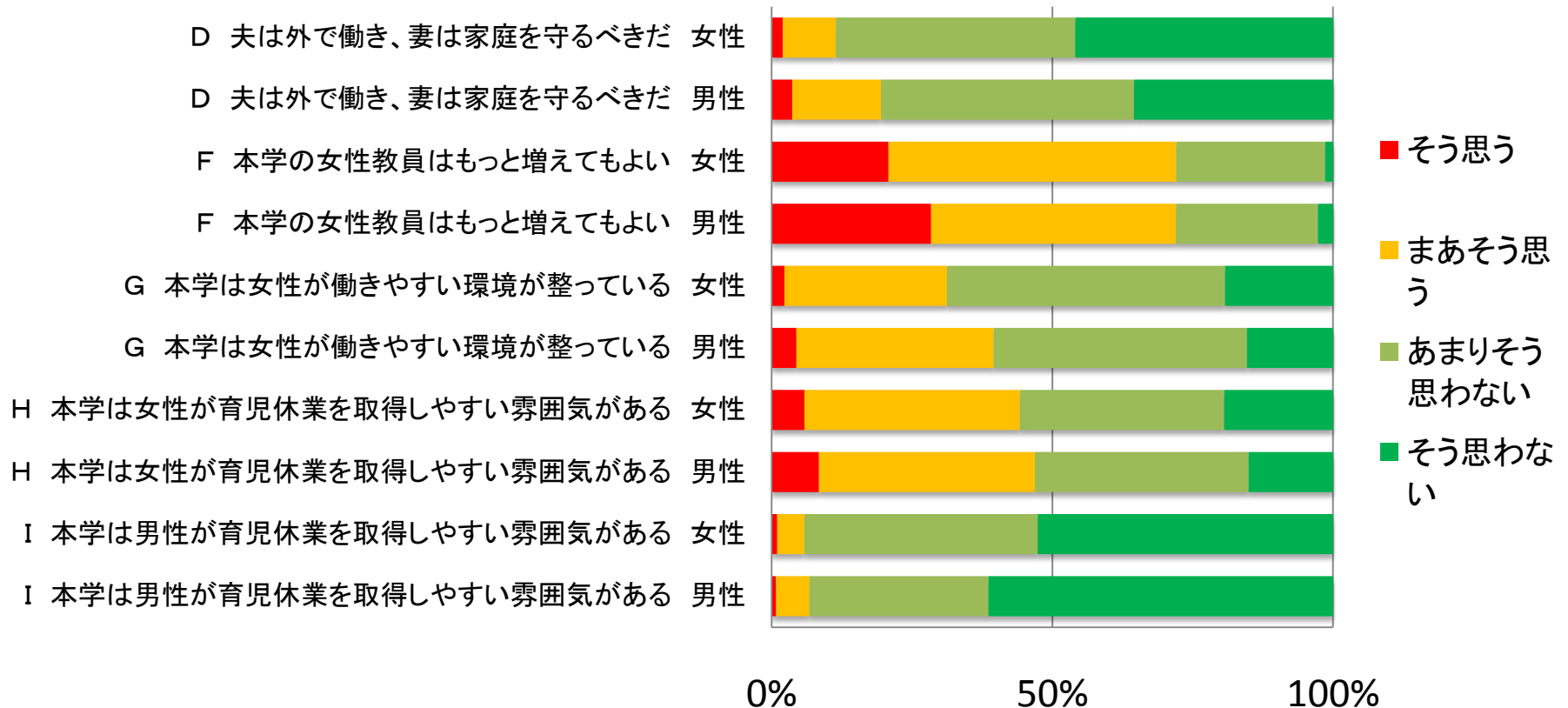
家事等の時間数(平日・分)



- ・女性が家事等を長い時間担っている。
- ・共働き男女を比較しても、女性が家事・育児を担っている。
- ・共働き男女では介護では差は見られない。(手元資料参照)

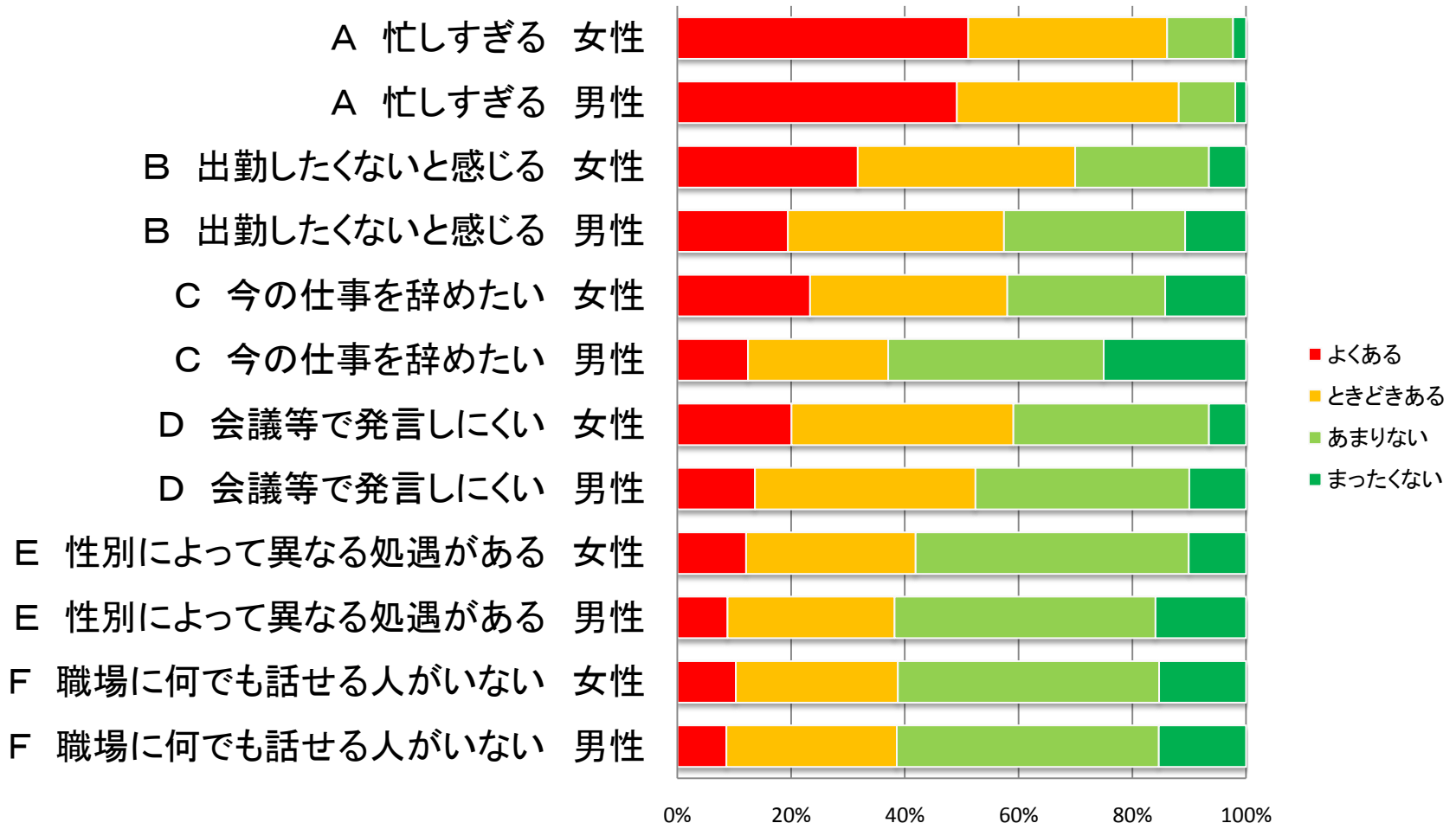
4 ワーク(仕事)について

問 仕事と生活の調和について



男女ともD「性別役割分業意識」は低く、F「女性教員はもっと増えて良い」と回答。しかし、G「女性が働きやすい環境が整っている」という人は少なく、また、H・I女性・男性ともに「育休を取得しやすい雰囲気がある」という人は少ない。

問 次のようことを感じたことがありますか



- ・男女とも、A「忙しすぎる」と感じている。
- ・女性は男性より：B「出勤したくないと感じる」、C「今の仕事を辞めたい」等、感じる傾向。

5 ワークライフバランスについて

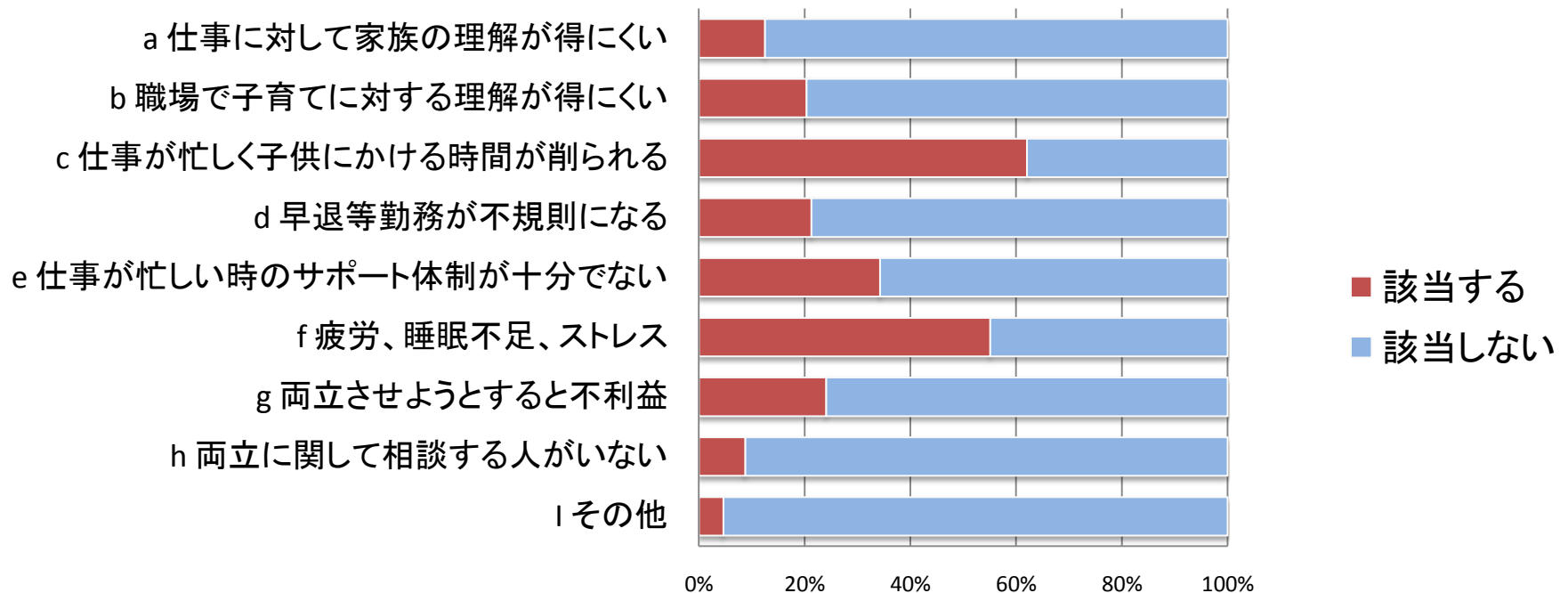
問 仕事の障害となっている要因は何ですか(3つまで選択)

	女性	男性
1位	主となる仕事と関係のない業務	主となる仕事と関係のない業務
2位	職場の人間関係	研究や業務時間が十分取れないこと
3位	研究や業務時間が十分取れないこと	職場の人間関係
4位	研究や業務を補助する人がいないこと	研究や業務を補助する人がいないこと
5位	育児・子供の教育	研究や業務のスペース・設備
6位	家事	研究・業務費の金額
7位	管理的事務	管理的事務
8位	研究や業務のスペース・設備	育児・子供の教育
9位	妊娠・出産	その他
10位	介護・看病	家事
11位	その他	介護・看病
12位	研究・業務費の金額	家族の人間関係
13位	家族の人間関係	妊娠・出産
14位	女性(男性)であるための差別	女性(男性)であるための差別

- ・青色＝時間や補助人員など手持ちの資源に対して「仕事量が多い」という項目。
- ・黄色＝「育児・・・」「家事」など「生活関連」の項目。
- ・男女ともに、上位には青色、「仕事量が多い」ことが入る。
- ・女性は男性に比べ、黄色、「生活関連」の項目が上位。

子育てと仕事の両立で困難を感じること

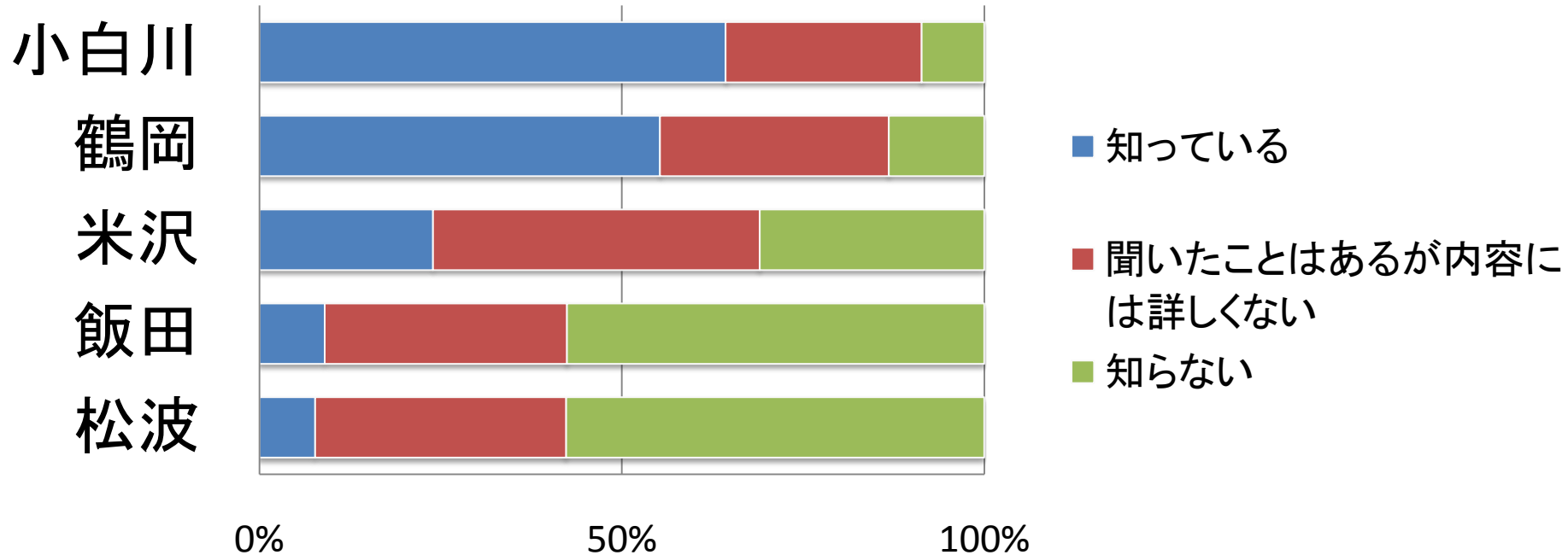
(男女合計、就学前の子を持つ人のみ、あてはまるもの全て選択)



- ・男女ともに、c「仕事が忙しく子供にかけられる時間が削られる」、f「疲労、睡眠不足、ストレス」、e「仕事が忙しいときのサポート体制が十分でない」ことで困難を感じる傾向。
- ・男女別に見ると、f「疲労、睡眠不足、ストレス」やd「早退等で勤務が不規則になる」を女性が男性よりも多く選ぶ傾向。

6 本学の取り組みの周知度

男女共同参画推進室の周知度(キャンパス別)



- 男女共同参画推進室の周知度は、今年度で取り組みが多かった小白川・鶴岡キャンパスが高い傾向。

7 まとめ

ライフ(生活):

- ・配偶者等と同居が半数以上。しかし、別居も多い。特に大学教員女性では独身・別居が多い。
- ・子どもを持つ人が約半数いる。
- ・家事等は男性より女性が長時間担う傾向。共働き男女でも同様の傾向(介護ではその傾向は無し)。

ワーク(仕事):

- ・男女とも性別役割分業意識は低く、女性教員は増えて良いと考えている。しかし、女性が働きやすい環境、男女が育休を取得しやすい雰囲気とはいえない。
- ・男女とも「忙しい」。女性は男性より、「出勤したくない」等感じている。

ワークライフバランス:

- ・仕事の障害: 男女とも手持ちの人員や時間に対し、「仕事量が多い」。女性は男性より、生活関連の項目、仕事と家庭の2重役割を担っている。
- ・仕事と子育ての両立: 男女とも「仕事で子供との時間が削られる」。女性は特に疲労、勤務が不規則になる、サポート体制が十分でないことを困難に感じている。

本学の取り組みの周知度:

- ・周知やイベントは、今後、周知度の低い松波、飯田、米沢キャンパスを重点的に行う必要がある。

その他詳細については山形大学男女共同参画推進室のホームページと平成21年度報告書(平成22年3月発行予定)をご参照ください。
ご清聴ありがとうございました。